法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

巻頭言

田中舘,秀三

```
(出版者 / Publisher)
法政大学地理学研究室
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政地理
(巻 / Volume)
1
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
1
(発行年 / Year)
1950-07-01
```

法政大学地理学会は創立せられた。此会は且れ出づべくして生れ、然 もその生命は永久的であり、会員の努力の続かん限り進展する。此処に 本会の証生を会員諸君と共に喜び、且創立委員の労を納する。

此際逆に二つのことを発調したい

其一は、此会は学会である限り異なる研究は会の本言であるといふことを忘れてはならぬ。如何なる向顧の研究にあってもその中に精神のこもったものには真理を呼ず見出し得る。それ故会員は科学的良心をもって、受理への追求を無かにしてはならない。而して法政大学地理学会は地理学徒の一団としてからる研究を促進するであらう。而して研究者は其の目的に対する不断の努力によって、日に日に身神を新にし、向上せしめ而もその内的生活に豊かなる激みを受ける。

二、地理学徒の社会に対する義務である。吾々は比度悲惨なる取動を経験した。私は地理学徒として感するのであるが、強制せられたる唯我独善的国民教育と、断歴されたる国民の世界華精一地縁に対する無理解とは、国をあげて戦争の中に吸ひ込まれた主なる因をなしたのである。戦后の日本の存立は一に世界各国との親善によってのみ保証される。そして東亜の井底を桃源とせし吾国民は今や国際の舞台に押し出された。從つて国民は在界各地の爭構に選廃し、二人によって日本の主界に於ける地位を旺んにし、各国人を異に理解し、之と相位して国際平和への遺を地合るはならぬ。そして吾々地理学徒は職を直接教育界に奉ずると否とを同はず、吾々国民の同に国際爭備を徹底せしむる義務を相する。

思ふに自分一人の刀は弱くして乏しい。加球表面の地に立脚する自然的、人文的錯現象一然もしばらくモ止かことなき、皮化する現象を研究対象とする広範なる地理学の学徒には特にその感を深くするものである。そして又定馬煙の如く進展して行く地理学は、たびかくの如き地理学会―即ち地理学園の大きい力によってのみ追求出来る。 定んや処理学の先端に立って学界に関聯し国民を指導すべき学徒たらんとするものは、一倍の努力を要する。

上述の二目的の遂行を注命とする此会はた下会員全部の協力によっての み 解進して行人のである。吾が若き地理学能の健康を祈って鑑者。 と。